

平成 21 年度(2009 年度)

小学校英語活動に関する研究

～「評価の観点を踏まえた単元計画」と「小中連携の具体策」～

全小学校からの研究員による研究の 4 年目にあたり、今までの実績を踏まえ、①評価の観点を踏まえた英語ノートを題材とした単元計画づくり、②小中連携の具体策、を研究テーマとして研究を進めた。

また、夏季にはALTを講師とした研修で授業力を高めるとともに、冬季には小グループで実際の単元計画を作成し講評しあった。

<研究員>

新村 寿恵	箕面市立箕面小学校	神崎 有香	箕面市立西南小学校
入江 隆男	箕面市立止々呂美小学校	平尾 二三夫	箕面市立西南小学校
宮部 晃子	箕面市立萱野小学校	辻野 夏奈江	箕面市立萱野東小学校
湯浅 和子	箕面市立北小学校	緒方 章子	箕面市立萱野東小学校
岸上 達哉	箕面市立南小学校	松田 幸恵合	箕面市立豊川北小学校
沖田 信子	箕面市立南小学校	藤江 将幸	箕面市立豊川南小学校
塩田 満里子	箕面市立西小学校	小島 江利子	箕面市立豊川南小学校
畑田 文	箕面市立西小学校	升谷 美帆	箕面市立中小学校
大山 健一	箕面市立東小学校	村井 邦匡	箕面市立中小学校
足立 稔美	箕面市立西南小学校	前田 尚子	箕面市立萱野北小学校

<スーパーバイザー>

竹内 理	関西大学 教授
池田 真生子	関西大学 准教授

I 研究テーマの設定について

小学校外国語（英語）活動の目標は、「外国語（英語）活動を通じて、『コミュニケーション能力の素地を養う』ということである。『コミュニケーション能力の素地』は、①言語や文化についての体験的理解、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、③外国語の音声や基本的な表現、の3本柱を通じて養っていく。

この目標にかなった授業作りをするために、英語ノート（仮称）を基盤として、単元計画作り・授業指導案作り、授業実践を柱とした研究を進めた。

II 研究実績

5月16日 研究部会「1年間の研究でめざすもの」

（講師） 竹内 理

6月12日 研究部会「英語活動の授業案について」

（講師） 池田 真生子

8月19・20日 集中研修（兼：研究部会）

「授業づくりの実際」、「英語ノート（仮称）を用いたマイクロティーチング」

（講師） 池田 真生子

10月6日 研究部会（兼：中核教員研修E）

「英語ノート（仮称）を用いたマイクロティーチングの準備①」

10月20日 5年パイロット校研究授業（西南小学校にて）

5年英語ノート Lesson 3 数字で遊ぼう

（助言者） 土井 正幸 （大阪府教育委員会 指導主事）

11月17日 研究部会（兼：中核教員研修E）

「英語ノートを用いたマイクロティーチングの準備②」

12月1日 研究部会（兼：中核教員研修E）

「英語ノート（仮称）を用いたマイクロティーチングの準備③」

1月5日 研究部会（兼：中核教員研修E）

「英語ノートを用いたマイクロティーチング」

2月26日 英語活動電子黒板活用研修、並びに北小学校拠点校発表会

（講師） 住 政二郎 （姫路獨協大学 講師）

3月6日 6年パイロット校研究授業（萱野小学校にて）

6年英語ノート Lesson 6 行ってみたい国を紹介しよう

（助言者） 松永 淳子 （大阪府教育委員会 指導主事）

3月下旬 研究紀要にまとめ

Ⅲ 研究内容

1. 新学習指導要領について

小学校外国語（英語）活動の目標は、「外国語（英語）活動を通じて、『コミュニケーション能力の素地を養う』ということである。『コミュニケーション能力の素地』は、①言語や文化についての体験的理解、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、③外国語の音声や基本的な表現、の3本柱を通じて養っていく。

小学校外国語（英語）活動において、「言語や文化に対する体験的な理解」、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」、「外国の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」を、体験させたいので、中学校・高等学校で系統的な外国語（英語）スキルを「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」の4技能に渡って系統的に育ませる。

2. 英語ノートについて

平成21年度（2009年度）より、全国の小学校5・6年生に配布される。教科書ではないが、新学習指導要領の主旨や中学校英語教科書との接続性を踏まえた内容となっている。

3. 単元計画づくり・授業指導案づくりの留意点

- ・外国語活動の目標「コミュニケーション能力の素地を養う」内容とし、英語スキル中心の内容とならないように工夫すること
- ・単元目標に沿って、単元の中での授業どうしの関連性を持たせること。また、45分の中での活動においても前回までの復習を含め流れを持たせることが望ましい。
- ・各授業における目標に沿って、児童の興味・関心に沿った内容となるよう工夫すること。
- ・地域や児童の実態を踏まえた内容とすること。そのために、同じ内容であっても、パターンを変えた複数の活動を準備したり、教材・教具の工夫が望まれる。

※平成20年度作成の参考授業案は、各小学校に紙媒体で配布済み、もしくはM-N e t のライブラリイからもダウンロード可能。

4. 授業と評価の観点は3つ

- ・毎回の授業に3つの観点を含める必要はなく、1つの単元で3つの観点が含まれていれば良い。

- (1) 言語や文化に対する体験的な理解
- (2) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
- (3) 外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ（「習得」でない）

5. 電子黒板活用の留意点

- ・クラス担任が授業をするうえで有効な道具となりうるもの。

子どものわくわく感を引き出す、考える仕掛け、前時までの復習

- ・英語ノート付属の電子教材は、ピクチャーカードを見せながら、CDをかけて・・・という複数作業をすることなく、画面をクリックすれば音声も出るので、指導が円滑である。

- ・視覚的な情報を児童に与えることができるので、不必要に難しい説明をすることなく、電子教材を教師がやってみせることで児童に活動内容を理解することができる。
- ・また、英語ノート（紙媒体）にはない情報も電子教材には含まれており、教師が授業準備をする際に用いても非常に便利なものとなっている。
- ・学校の教室で5分休憩にセッティングすることは厳しい予測されるが、英語授業に使える別の教室があるならばそこに設置することも有効であると思われる。

※各小学校の黄色パソコンにH21年度分がインストール済み。また、教育センターホームページからも引き出すことが可能。

※拠点校事業の研究として、平成20年度に北小学校で作成の電子教材も逸品。（教育センターのホームページに掲載予定。）

Ⅳ 次年度への課題

1. 「小学校外国語（英語）活動」と「中学校外国語（英語）科」をどう繋ぐか
2. 小学校外国語（英語）活動の評価の在り方

寄稿「ティーム・ティーチングのポイント」

池田 真生子 (関西大学 外国語学部)

I. はじめに

2011年度より、全国の公立小学校で「外国語活動」が本格的に実施されことになりました。その指針となる新学習指導要領(2008年3月公示)では、「外国語活動」を進める主な担い手は学級担任であるとし、その役割は授業の「設計、実施、評価」をおこなうことと記されています。さらに、設計、実施についてはネイティブ・スピーカーの活用にも努めるようにとも示されています。つまり、外国語指導助手(Assistant Language Teacher:以下ALT)などとのティーム・ティーチングを奨励しているといえるでしょう。移行期間の2年前(またはそれ以前)より、随時ALTなどとのティーム・ティーチングは実施されてきているものの、「ティーム・ティーチングがうまくいかない」「なぜティーム・ティーチングをしなければならないの?」などの声が研修会などでよく聞かれます。他の教科のように1人で授業をおこなえば、打ち合わせなどの手間もかかりません。なぜ「外国語活動」ではティーム・ティーチングが求められているのでしょうか。どうすれば、ティーム・ティーチングがより効果的にできるのでしょうか。本稿では、まずティーム・ティーチング(特にALTとの)がなぜ必要なのかを考察し、その必要性を理解した上で、ティーム・ティーチングを効果的に進めるためのポイントをいくつかご紹介したいと思います。

II. ティーム・ティーチングの必要性

1. 担任だからできること

ティーム・ティーチングの必要性は、「外国語活動」の目標と関係していると考えられます。「外国語活動」の目標は、

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと、
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと、そして
- (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること

(文部科学省、2008)

の3本柱です。これらの目標をよくみると、担任にしかできないこと、ALTなど指導助手にしかできないこと、の両方が含まれています(表1参照)。なかでも、担任にしかできないことの1つは、児童の実態を把握している、ということです。上述の目標のうち、「言葉の面白さや豊かさに気付(目標1)」かせたり、「多様なものの見方や考え方があることに気付(目標2)」かせたりするためには、児童が普段からどのようなことに興味・関心をもっているのかを、教師が知っていなければなりません。ご存知の通り、認知的な発達段階の途上にある子どもたちにとっては、(知的)好奇心に合った活動や教材が用意されることが、学習の促進を左右する要素の1つと考えられます。個々の児童が何に興味をもっているのか、どういうことに関心があるのかを具体的に知っているのは、普段から彼(女)らに接している学級担任です。

表1. 担任、ALTそれぞれの役割

	担任	ALT		
授業前	児童の実態把握	◎	○	
	活動案の作成	◎	○	
	教材の作成	◎	○	
授業中	学級のコントロール	◎	○	
	音声モデル	○	◎	
	活動モデル	◎	◎	
	英語を「使う」喜びの提供	○	◎	
	学習者としてのモデル	◎		
	英語に対する「不安」の排除	◎	○	
	活動観察・フィードバックの提供	◎	○	
	異文化紹介			◎
	授業後	評価	◎	○

* ◎：より適切 ○：適切

満屋 (2003, pp. 118)、岡、金森 (2007, p. 116)より改編

また、集中力のスパンがまだ短い児童全体をクラスとしてまとめ、運営できるのも学級担任ならではです。指導助手として「外国語活動」の授業に参加されている先生たちからも、「私たちではクラス運営がうまくできない」といった声や、「授業の前に必ず担任の先生に、児童たちの様子や気になる点がないかを聞きに行くようにしています。そうしなければ、子どもたちがいうことを聞いてくれません」というコメントをよく耳にします。このような状況で、もし担任が授業をALTに「お任せ」にしてしまうと、どうなるでしょうか。ALTは児童のことを担任ほど理解することが現実的には難しいため、ALTでは児童をまとめきることができず、授業が崩壊しまいかねません。つまり、担任が「主」になりきらなければ、ALTは担任を「アシスト」することができなくなる、というわけです。

さらに、担任だからこそできる3つ目の役割は、「英語を使う日本人」として、児童のロール・モデルとなれることです。「外国語活動」の目標の中には、「外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむ(目標1)」ということが含まれていましたが、慣れ親しむためにはもちろん繰り返し音声やリズムに触れることが大切といわれています。しかし、いくら繰り返されてもその言葉との心理的距離が縮まらなければ、慣れ親しむこともできないでしょう。児童にとってもっとも身近な学級担任が外国語(英語)を使っている姿を見せることは、彼(女)らが自分たちの将来(=到達目標)をより具体的にイメージすることにつながり、外国語をより身近なものと感じることができるでしょう。

2. ALTだからできること

一方、ALTだからこそできることは何でしょうか。主に考えられることの1つは、「豊富な外国語(英語)の知識を生かして活動・教材の作成ができる」ということです。担任はもちろん児童の特性に合った指導案を作る中心となりますが、外国語に堪能なALTだからこそ作成できる教材もあります。また、外国語の教授法について専門的な知識を有しているALTもいます。こうした知

識をもとにした授業の組み立てができるのは、ALTだからできることです。

ALT だからこそできることの2つ目は、「英語を使う（聞く・話す）喜びを児童に与えることができる」ということです。音声の単なるモデルであれば、CD プレーヤーや電子黒板で十分なはずですが、機械ではなく人間同士のコミュニケーションで、外国語が通じる喜びを児童が得られることが、「外国語活動」の授業では大切なのではないのでしょうか（目標3）。コミュニケーションをすることはどういうことか、そのことを子どもたちに身を以て体験させることができます。

最後に3つ目として、「ALT の自国文化や発想などを児童に伝える」ことがあげられます。上述の「外国語活動」の目標には、外国の生活、習慣、行事などを学ぶこと（目標2）も含まれていますが、ただ絵カードや地図などの教材から学ぶだけではなく、ALT から直接伝えられることで、その国がたちまち児童たちにとって身近な国となり、学習が促進されることでしょう。

このようにみると、担任、ALT それぞれにしかできない役割があるのがわかります。子どもたちがコミュニケーションの大切さを知り、多角的な考え方ができるようになるためには、やはり担任とALT がそれぞれの持ち味を発揮し、協力し合ってチーム・ティーチングをおこなうことが重要なようです。

III. チーム・ティーチングを効果的に進めるためには

1. お互いの役割を理解「し合う」

では、効果的にチーム・ティーチングをおこなうには、どうすればよいのでしょうか。本稿では、主なポイントを3つ提案します。1つは、担任とALT がお互いの役割を理解し合うことが考えられます。まず、前章でも述べられたように、授業運営、学級コントロールの中心的な役割を担うことです。そしてALT の役割は、授業設計・運営に際して担任をサポートすること、そして外国語（英語）で児童とコミュニケーションをとることです。

ここで大切なことは、このお互いの役割を一方向的に認識するのではなく、お互いに理解「し合う」ことです。例えば、もし授業運営の中心を、担任はALT だと思い、反対にALT は担任だと認識していたらどうでしょうか。お互いがサポート役に徹してしまい、授業を牽引する人がいなくなってしまう。そのため、両者が同じ認識を共有していることが重要といえます。

2. 打ち合わせをする

2つ目のポイントは、打ち合わせを十分にすることです。まとまった時間を確保するのが難しい場合は、「ニッチ時間」、つまり細切れの時間を作ると効果的です。朝の授業前の時間、授業直後、放課後など、ほんの数分です。この際、打ち合わせる内容さえ把握していれば、短時間でも有意義な打ち合わせが可能となるでしょう。では、何を打ち合わせればよいのでしょうか（表2参照）。授業前後で分けて考えてみると、まず授業前には、a) 指導案および教材の確認してみましょう。具体的には、授業全体の流れやお互いの役割を確認することなどが、考えられます。

表2. 打ち合わせの内容

授業前

- a) 指導案および教材の確認
- b) クラスルーム・イングリッシュの確認
- c) 児童の情報の共有

授業後

- d) 授業の振り返り

そして、次の授業に関係する部分の b) クラスルーム・イングリッシュを確認します。この際、すべてを確認するのではなく、キーワードとなるものをいくつか確認するだけでもよいでしょう。せっかく ALT が参与してくれるわけですから、児童のロール・モデルとなるべく、勉強するつもりで臨むとよいかもしれません。あまり外国語（英語）に自身がない場合には、欲張ると長続きしません。月に1つ、2つと少しずつ使うフレーズを増やしていくと、1学期が終わる頃にはある程度のフレーズを使えるようになっていた、という先生が周りにもきつというはずです。

クラスルーム・イングリッシュの確認が終わったら、c)児童の情報を ALT に伝えて、授業前の打ち合わせは終了です。a)b)c)はまとまった時間にする必要はありません。先述のように「ニッチ時間」で少しずつ確認するなど、自分たちのやりやすいスタイルを模索してみるとよいでしょう。

さて、授業が終わった直後の打ち合わせも大切です。今日の授業でうまくいった点は何か？うまくいかなかった点は何か？児童のことで何か気になったことはなかったか？などを話します。このように、次の授業に活かすために、担任と ALT が一緒に授業を振り返ることが有効的と思われます。

以上のように、確認したい点やアドバイスを欲しい点を把握していれば、短時間でとても実り多い打ち合わせができ、ひいては授業がよりスムーズに進むことにつながります。

3. 良好な人間関係を築く

チーム・ティーチングを効果的に進めるための3つ目のポイントは、担任と ALT との間で、日頃から人間関係を良好にしておくことです。特筆すべきことではないように思われがちですが、実はとても大切なことだといわれています。お互いの役割を理解したり（ポイント1）、打ち合わせをしたり（ポイント2）するためには、担任と ALT の対話が必要不可欠です。よりよい対話をするためには、(普段子どもたちにも教える)あいさつやジェスチャー、笑顔などを日頃から絶やさず、コミュニケーションをはかることが何よりも大切といえそうです。

IV. おわりに

本稿ではまず、チーム・ティーチングの必要性として、「外国語活動」の目標に照らして、担任および ALT それぞれにしか担えない役割があることを確認しました。その上で、チーム・ティーチングをより効果的に進める主なポイントとして、担任と ALT が1) お互いの役割を理解「し合う」こと、2) 打ち合わせをすること、そして3) 良好な人間関係を築くこと、の3つを考察しました。

昨今、海外へ留学する若者の数が減少傾向にあるといわれています（文部科学省、2010）。チーム・ティーチングが効果的に進み、その結果「外国語活動」の目標が達成されることによって、

世界のさまざまな物事や考え方に興味をもつ子どもたちが増えることを期待いたします。

参考文献

岡 秀夫、金森 強 (2007). 『小学校英語教育の進め方 ―「ことばの教育」として―』 東京：成美堂

鬼本ますみ. 2006. 「英語活動の TT における HRT と ALT の役割の分析：タクティクスを用いた分析の試み」『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』 第 25 号. pp. 17-34

河田嘉春 (2007). ALT との連携・知っておきたいポイント 影浦攻、他 (編) 『小学校英語セミナー No. 23 「必修」に担任としてどう取り組むか』 東京：明治図書出版 pp.26-29.

兼重 昇. 2007. 「第 2 部第 4 章 指導者と指導形態、よりよいチーム・ティーチングの進め方」岡 秀夫・金森 強 (編著) 『小学校英語教育の進め方』. (pp. 114-124). 東京：成美堂.

河田嘉春. 2007. 「ALT との連携・知っておきたいポイント」影浦攻・小学校英語セミナー委員会 (編) 『小学校英語セミナー No. 23 「必修」に担任としてどう取り組むか』. (pp. 26-29). 東京：明治図書出版.

満屋敏夫 (2003). 「総合的な学習の時間」における「英語活動」－ ALT とのチーム・ティーチングの視点から 金森強 (編著) 『小学校の英語教育―指導者に求められる理論と実践』 東京：教育出版 pp. 112-120.

文部科学省 (2008). 新学習指導要領 (平成 20 年 3 月告示 平成 23 年 4 月実施分)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/gai.htm

文部科学省 (2010). 「日本人の海外留学生数」について (平成 22 年 12 月 22 日発表)

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/12/1300642.htm

Total English 1

Vocabulary

	Lesson 2	Lesson 3	Lesson 4	Lesson 5	Lesson 6	Lesson 7	Lesson 8	Lesson 9
Let's start	I have ~.	My father works ~.	I am ~.	Mihi is ~.	Shun and Jim are/like ~.	~ can ~.	I'm watching ~.	I played ~.
Nice to meet you	What do you ~?	Does she/he ~?	You are ~.	Is she/he ~?	They use ~.	~ can't ~.	Are you studying ~?	Did you ~?
How are you?	I watch ~.	Yes, he does.	Are you ~?	Yes, she is.	What's ~?	Can you ~?	Yes, I am.	Yes, I did.
I'm fine, thank you.	Stand up, please.	No, he doesn't.	Yes, I am.	No, she isn't.	It's a ~.	Yes, I can.	No, I'm not.	No, I didn't.
And you?	Don't run, please.	She/He doesn't ~.	No, I'm not.	Where ~?	Who ~?	No, I can't.	When ~?	I didn't ~.
I'm sorry.	have	some	I'm not ~.	It's ~.	That's ~.	Tell me/us ~.	I'm ~.	dear
Excuse me.	any	of	How many ~?	is	They use ~.	Which ~?	Whose ~?	arrive(d)
Pardon?	pet(s)	my	I have ~.	nice	What time is it?	look	hello	ago
How do you say ~ in English?	but	family	hi	meet	It's ~.	these	speak	yesterday
picture	want	father	thank	new	What time do you get up ~?	bottle(s)	house	there
computer	how	work(s)	am	Classmate	I get up at ~.	can	visit	bird
music	about	in	are	Mihi	tell	can	now	same
Japanese	two	library	very	Nice to meet you.	member(s)	shampoo	This is ~.	only
English	an	mother	cook	she's	come	conditioner	come and visit ~	Auckland
tea	How about ~?	teach(es)	Jim	cafeteria	they	know	toast(ing)	Auckland Zoo
window	watch	Ms. Beck's	hot dog	it	today	smooth	square	kiwi(s)
pen	and	does	Thank you.	food	the Internet	blind	round	the same as ~.
notebook	on	hobbies	I'm	that	am/are/is on the internet	people	style	did
math	TV	hobby	you're	tall	here	difference	interesting	receive
pencil	what	he	from	boy	homepage	can't	rice cake(s)	letter
tennis	drama(s)	garden(ing)	fan	junior	custom(s)	tell ~from ~	special	well
basketball	me	she	every	high	section	How do you ~?	often	each
dog	Me, too.	collect(s)	day	student	pumpkin	interested	turkey	other
soccer	stand	doll(s)	America	isn't	different	say	when	nose(s)
baseball	up	make(s)	every day	he's	one	mean	fourth	gesture
coffee	please	doesn't	am/are from ~.	where	here's	those	November	one of ~
book	sit	brother	subject	near	Here is/are ~.	dot(s)	free	each other
cat	down	live(s)	the	has	American	Braille	New Year	aren't
orange	run	studies	guitar	lot	Halloween	am/are/is interested	Christmas	Maori
apple	stand up	study	player	sheep	What's	in	Thanksgiving Day	didn't
milk	sit down	at	let's	New Zealand	jack-o-lantern	as	month(s)	Mt.
good	touch	school	practice	where's	am/are/is different from ~	volunteer	January	like
morning	walk	China	together	it's	who	us	February	dance
Ms.	write	Chinese	phone	Australia	girl	sure	March	after
afternoon	your	Sunday	number	a lot of ~	we	sheet	April	show
good-bye	name	Monday	right	sorry	dress	word	May	try
see	read	Tuesday	~, right?	night	costume(s)	Let's see.	June	sister
		Wednesday	many	get	door	his	July	learn(ing)

<p>off</p>	<p>mistake</p>	<p>them</p>	<p>jellyfish</p>	<p>fall into</p>	<p>come off</p>	<p>mistake ~ for ~</p>	<p>die</p>	<p>world</p>	<p>hold</p>	<p>throw away</p>	<p>hundreds of ~</p>	<p>die from ~</p>	<p>hold on to ~</p>	<p>throw away ~</p>
------------	----------------	-------------	------------------	------------------	-----------------	------------------------	------------	--------------	-------------	-------------------	----------------------	-------------------	---------------------	---------------------